

尼同教 60年

尼同教の結成とその後の取組 ⑭

尼崎市人権・同和教育研究協議会 副会長 三澤 雅俊

前号に続き「尼同教60周年記念誌」に掲載された年表で尼同教のあゆみを振り返っていきます。

年度	尼同教の活動	尼崎市の動き	兵庫県・国の動き
昭和31(1956)		8月 同和地区の公民館づくり(今北)始まる	12月 朝日新聞「部落300万人の訴え」を連載
昭和32(1957)	2月 「尼崎市同和教育研究協議会」結成 3月 尼同教月例研究会始まる	4月 同和事業予算費目設定 6月 今北地区実態調査 11月 隣保館づくり(上ノ島)始まる	
昭和33(1958)	4月 同和教育啓発資料発行 5月 研究討議資料「同和教育推進のために」 9月 同和教育婦人講習会始まる	6月 広報紙「同和あまがさき」創刊(同和事業協議会)	10月 「同和問題閣僚懇談会」設置
昭和34(1959)	3月 部落解放講習会始まる(隣保館、同和事業協議会)	3月 第1回部落解放講習会開催	4月 文部省が同和教育研究指定校予算計上 12月 「部落解放兵庫県連合会」発足
昭和35(1960)	6月 映画「絶唱」上映活動	11月 尼崎市同和教育講座始まる	8月 「同和对策審議会設置法」制定
昭和36(1961)	6月 映画「人間みな兄弟」上映活動		8月 「部落解放要求貫徹請願運動」全国規模で展開 9月 第8回兵庫県同和教育研究大会(西宮市) 11月 第13回全国同教研究大会(神戸市・明石市)
昭和37(1962)	10月 「尼崎市同和教育研究協議会」を「尼崎市同和教育協議会」に改組 2月 定例研究会始まる		4月 1月 全同教が「同和教育」を創刊 同和对策審議会が同和地区全国基礎調査を実施
昭和38(1963)		12月 人権週間のつどい事業始まる	5月 狭山事件 12月 「義務教育諸学校の教科用図書は無償措置に関する法律」施行
昭和39(1964)		*同和地区実態調査始まる(東今北、南守部)	
昭和40(1965)	5月 「尼崎小・中学校同和教育研究会」発足		8月 「同和对策審議会」答申(国)同和地区に関する社会的・経済的諸問題を解決するための基本方針

⇒次号につづく

つながる

発行 尼崎市人権・同和教育研究協議会
〒661-0024 尼崎市三反田町1-1-1 社会教育課内
TEL/06-4950-0405 FAX/06-4950-5658
E-mail/ama-syakaikyoku@city.amagasaki.hyogo.jp

1月22日 木曜日

人権・同和教育実践研究大会 講演会



尼崎市立中央北生涯学習プラザで、人権・同和教育実践研究大会を開催しました。今年度は、尼崎市役所南部保健福祉センターで支援・相談員をされている韓 静(かん せい)さんに「中国残留邦人の支援給付制度における 支援・相談員の活動について ―中国残留日本人2世の一人として―」と題してご講演いただきました。

韓さんは、中国残留孤児であるお母さまといっしょに日本に生まれ、日本語の勉強をするところから始められました。そして、大学院を修了し通訳や翻訳のお仕事を経て、現在は尼崎市で支援・相談員として働いていらっしゃいます。

講演では、中国残留邦人の状況や、支援給付制度の内容と支援・相談員の仕事など、17年間の経験を交えてお話をいただきました。

中国に残された時の年齢で残留婦人と残留孤児とに分かれるということ、また残留婦人と残留孤児では帰国後に困ることが違うので支援の仕方も変わるということ、そして残留邦人の現在の状況など、これまでに学習した中国に残されてしまった経緯や帰国するまでのお話と併せて、本当に大変なご苦労をなさっているのだと思いました。

中国残留邦人についての課題はまだたくさんあります。決して風化させてはいけない歴史だということをも改めて認識した講演でした。

講演の内容は年度末発行の「尼同教この1年」に収録予定です。詳しくは尼同教事務局までお問い合わせください。



人権・ひとこと

21世紀は人権の世紀になるとワクワクしたのは夢幻であったのか。ロシアがウクライナに侵襲してから4年。イスラエルがパレスチナのガザ地区を攻撃して2年以上。どちらも甚大な人命被害と人道危機を引き起こしている。始まった戦争は、国連でさえ終結させられず現在に至っている。私は尼同教の会長になって8年になるが、戦争と平和について機会がある度に言及するようになるとは20世紀末には全く予想もしなかった。世界は日に日に悪くなっていくようだ。

20世紀は戦争の世紀だったが先の戦争を反省して、国民主義・基本的人権の尊重・平和主義を三大原則とした憲法が成立した。

この原稿を執筆している数日後に衆議院議員総選挙が行われる。戦後80年、戦争体験者が少なくなったためか核の保有・共有を必要とする議員も出てきた。日本は唯一の被爆国だ。日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞を受賞した2024年。同団体は核兵器廃絶を目的とする平和団体だ。日本は非核三原則(核兵器を持たず・作らず・持ち込ませず)を国是としている。最近では武器を輸出する動きも見える。皆様は如何お考えでしょうか。戦争は最大の人権侵害だ。人権なくして平和なし、平和なくして人権なしということ。

平和な社会でお互いの人権を尊重しあい誰もが自分らしく生きられる社会を皆様と築いていきたいと思っています。

尼崎市人権・同和教育研究協議会 会長 寺岡 陽子

・ 編集後記 ・

尼崎市には現在13,000人以上の外国籍の人が住んでいますが、1月22日に講演された韓さんのような存在はあまり知られていないのではないのでしょうか。「中国残留日本人」。戦時中国策によって傀儡国家満州(現東北3省)へ追い立てられるように渡り、敗戦によって取り残され、留まることを余儀なくされた人々。帰国後の苦難を乗り越えた今「コスモスの会で日本語を学ぶことも楽しいけど、ここへ来れば思いっきり中国語でお喋りできる!」そんな思いを抱いておられる方々の学びの場が尼崎市に根付いていることは、外国にルーツを持ち当市で働き、生活しておられる多くの方々にとっても安心につながると思います。学び、語り合える大切な場を決して途絶えさせたいと考えています。

編集委員/山本 育子・高品 玲・時水 健一郎



尼同教では、団体会員・個人会員を随時募集しています。お気軽に事務局までご連絡ください。



CONTENTS

- ・ 尼同教 人権・同和教育実践研究大会 分科会
- ・ 「コスモスの会」の紹介
- ・ 阪神同教 就学前教育研修会
- ・ 「尼同教の結成とその後の取組⑭」…尼同教 副会長 三澤 雅俊 さん
- ・ 「人権・ひとこと」… 尼同教 会長 寺岡 陽子 さん

バックナンバーはこちら!



尼崎市 HP のトップページから
ページ番号 1011854 でご検索ください。

